

1. 調査報告概要表

作成日 平成22年 6月11日

【評価実施概要】

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 事業所番号 | 190200245 |
| 法人名 | 医療法人社団 醫光会 |
| 事業所名 | グループホーム 野ばら |
| 所在地 | 群馬県高崎市矢島町 21 (電話) 027-350-1055 |

| | |
|-------|-----------------------------|
| 評価機関名 | サービス評価センターはあとらんど |
| 所在地 | 群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階 |
| 訪問調査日 | 平成22年3月29日 |

【情報提供票より】(22年 2月 9日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|-------|---|
| 開設年月日 | 平成 21 年 2月 1 日 |
| ユニット数 | 1 ユニット |
| 職員数 | 利用定員数計 9 人 常勤 7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 6.7 人 |

(2) 建物概要

| | |
|------|---------------------------|
| 建物構造 | 木造平屋 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分 |
|------|---------------------------|

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|-----------------|------------|------------|---------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 48,000 円 | その他の経費(月額) | 光熱費15,000円他実費 | |
| 敷金 | 有(円) 無 | | | |
| 保証金の有無(入居一時金含む) | 有(円) 無 | 有りの場合償却の有無 | 有/無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 200 円 | 昼食 | 350 円 |
| | 夕食 | 350 円 | おやつ | 50 円 |
| | または1日当たり 円 | | | |

(4) 利用者の概要(2月9日現在)

| | | | | | |
|------|---------|------|------|----|------|
| | 9 名 | 男性 | 1 名 | 女性 | 2 名 |
| 要介護1 | 3 名 | 要介護2 | 2 名 | | |
| 要介護3 | 4 名 | 要介護4 | 0 名 | | |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 84 歳 | 最低 | 76 歳 | 最高 | 92 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|------|
| 協力医療機関名 | 駒井病院 |
|---------|------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者との面談では管理者の施設への思いや目標が外部評価の目的と一致する部分がある。管理者と職員で作り上げた理念も的を得ている。新規立ち上げから努力した結果が表れている。利用者が住み慣れた地域の行事に参加することで生活を中断させない工夫や家族の協力を大事に、生活支援を考えている。反面、食器皿は1枚で分かれているプレートだったり、食器やお箸に理由はあれ名前シールが貼ってあるという部分もある。利用者が安定して生活できるよう家族の様々な思いも丁寧に受け止め、自宅で生活しているような時間が持てる細かな支援を理念に沿って提供して欲しい。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | <p>今回は初評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者と職員で記入し管理者が取りまとめた。まとめた自己評価は全職員が目を通せるように休憩室において置いた。自己評価を行ったことで求められていることが何なのか分かった。</p> |
| 重点項目② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2カ月に1度定期的開催されている。運営推進会議では、本人・市職員・複数の家族が出席している。家族の希望で土曜日の開催となった。ホームからは、現状・地域行事等の報告がされ、事故・看取りの指針が議題にあがっている。当初は全家族に文書で案内を出していたが、現在は電話で開催日をお知らせしている。</p> |
| 重点項目③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>各家族が利用者のホームでの生活の報告をどの程度の頻度を望んでいるかアンケートの結果を参考に家族ごとに対応している。個別の密接な報告を心掛けている。</p> |
| 重点項目④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>認知症の利用者が、役割をもち、生き生きと生活する姿を地域・家族に見てもらおうと、様々な地域の行事に参加したり、日常的にはゴミ出しも行っている。「何時でも立ち寄れる場所」を目標にしている。</p> |

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 開設時に管理者と事業主が「見慣れた自然環境の中で・・・その人らしさを大切にできるホームを目指します」と掲げ、職員も前期・後期目標を理念に沿って掲げている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 管理者はスタッフとの定期的なカンファレンスと日頃のコミュニケーションにより、理念に向かって進んでもらいたいと願っている。具体的には丁寧な声掛けや日常生活の中から生き甲斐につながるものを見つけてもらえるように取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 子ども好きな人には子どもサロンへ、その他にも育成会行事やいきいきサロン等地域行事に参加している。認知症サポータ講座を開催し地域の方に参加してもらったり、地域のゴミ拾いに参加して、地域の方と顔なじみになって『何時でも立ち寄っていただける場所』を目指している。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 管理者は、グループホームの求められているサービスを自己・外部評価から得て日頃のサービスに繋げようとしている。自己評価は管理者と職員で記入し、管理者がまとめた。まとめたものを休憩室に置いて全員がみられるようにしておいた。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は2カ月に1度定期的開催されている。家族・利用者・市職員等が参加している。サービスの状況報告・地域の情報交換、事故報告・感染症について・看取りについて・職員の異動の報告等を行っている。家族へは電話で開催案内をし、議事録は玄関に掲示して、参加できなかった家族や来訪者にも気軽にみてもらえるようにしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|---|------|--|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 更新申請や事故報告を行ない、今後は苦情が出れば報告をして、連携を深める取り組みを考えている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 契約時に家族への報告を週1・月1・面会時等、どのペースで行なうかを確認して希望に沿って報告している。金銭管理は「利用者家計簿」を作成し面会時に報告している。 | ○ | 家族の希望も考慮しながら、入所間もない本人・家族の不安を和らげるためにも家族との寄り深い連携を希望する。 |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に意見箱を設置している。面会や電話報告時に「何かありませんか？」とこちらから声をかけて聞くようにしている。入所前に服薬していた薬の情報を家族から聞き、ホームでも継続できるように医師に相談した。出された意見は運営に生かしている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 新しい職員にはオリエンテーションをはじめ、先輩職員と共に日勤にて馴染みの関係を作ってもらい、夜勤へと徐々に管理者が見極めを行なっている。入職者は運営推進会議やホーム新聞で紹介している。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人研修があり、職員が希望する研修に参加が可能である。管理者研修に参加している。 | ○ | 開設1年のため研修を行なうシステムはあるが、まだ全スタッフが参加出来ない現状である。今後は外部研修にも参加できるように期待する。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、グループホーム大会で発表したり、交換研修に参加している。認知症研修や介護福祉士受験対策講座の受講希望者が出ている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|----------------------------------|
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 事前に家族から本人の性格等を聞き、継続した生活維持が保てるように工夫している。在宅への訪問や見学をしてもらい情報交換や身体状況の確認などで入所の判断としている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 料理では「ひと手間だけけどおいしいよ」という教えや、あや取り・野菜作りを教えてもらっている。本人の出来ることはやってもらい、趣味は継続できるようにお互いに刺激合ったり、発見したりという関係を築いている。 | | |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入所時の家族からの情報をもとにして生き甲斐につながるケアプランを心掛けている。言葉で表現出来ない人には担当者が、ゆっくり関わって判断している。夜間入浴・足欲・安眠ケアやビール等の嗜好品も健康に害が無い範囲で楽しんでもらっている。外出時に普段とは異なる笑顔を発見したりと、希望や思いを受け止めるようにしている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | サービス担当者会議を行ないケアマネジャーがプランを立てている。それぞれの担当者からの意見や家族の意見を踏まえたうえで、会議で検討し介護計画を作成している。家族面会時に押印をもらっている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画は状況により随時と3ヶ月に1回、更新時に見直しを行っている。モニタリングは1カ月に1回行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|--|------|---------------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 買い物・協力病院の受診・訪問美容支援等を行っている。 | ○ | 家族の希望を踏まえ、その人らしさの実現につながる多彩な支援をお願いしたい。 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医は本人・家族の希望を優先している。協力病院より月1回の往診があり、週1回全員の訪問看護支援を実施している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化の指針が文章化され、職員にも共有されている。医療的なものが無ければ、重度化してもホームで生活できる体制がある。病棟介護経験者が多いが、今後ターミナルケア研修の取り組みが必要と考えている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 書類は事務所に保管し、職員からは誓約書をとっている。名前には様を付けて呼んでいる。排泄時の声掛け・入浴介助時の同性介助に配慮し、プライバシー確保の徹底を重視した取り組みをしている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 買い物・縫い物・下膳・俳句などを自由に楽しんでいる。その人に合ったペースで生活できるよう支援しており、日中の楽しみごとや就寝時間も自由にしてている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 朝食は職員が作り、昼・夜はタイヘイを利用し、施設の判断でメニューの変更も出来る。利用者週に2回買い物に出かけ、朝食とおやつを買出しをしている。職員と一緒に食卓を囲み誕生日を祝い利用者の食事方法を工夫して、その人らしさを大切にしている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 月曜から土曜の午前・午後実施している。ゆず湯・みかん湯・足湯なども楽しんでもらっている。毎日1人づつの交代ではあるが、夜間入浴も支援している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | ゴミ出し・料理・洗濯・アイロンかけ・清掃・モップかけ・下膳等を協力してもらい、月に2回は外食に出かけたり、イルミネーション見学や美術館・ドライブ・チャリティコンサート・他のグループホームとの交流等、四季折々で楽しみごと・気晴らしの支援を行っている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | ドライブ・散歩・映画鑑賞に出かけている。季節によっては、小学校の運動会見学、初詣、夏祭りにも出かけている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 開設時から、玄関の鍵はかけず、職員の見守り等で対応している。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 5月に消防署立会い訓練、11月に夜間想定自主訓練を行っている。スプリンクラーの設置と緊急時のために利用者の顔写真の用意もされている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分の摂取量は1日1,000CCを確保し、ポットが置かれ自由に飲む事も出来る。食事は10/10(食事・副食)で記録されている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間は天井が高く開放的で、テレビ、ソファーが置いてあり、畳の部屋やテーブル、椅子も用意されている。廊下には絵画、写真が飾られ、落ち着いて過ごせる工夫をしている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ベッド・エアコン・寝具のみホームで用意している。人形、衣装ケース、整理ダンス、写真、作品、など本人に馴染みのあるものが持ち込まれ、その人らしい居室となっている。 | | |